

# 産業 **Impression!**

クリス・グレンの

Past to the Future!!

オーストラリア出身で日本をこよなく愛するクリス・グレンさんが中部地域の産業の現場や遺産をめぐります!

ハチミツやローヤルゼリー、プロポリスなどの健康食材の生産はもちろん、農作物の受粉などでも活躍するミツバチ。岐阜県各務原市にあるアピ株式会社の川島養蜂場は、花粉交配用のミツバチの流通拠点として、全国の養蜂家と農家を影で支えています。無数のミツバチが飛び交う現場をクリス・グレンさんが訪れました!



Vol. **3**

## 養蜂の現場で “自然の営み”を目撃



### 撮影協力 アピ株式会社

1907年(明治40年)創業。養蜂器具の製造・販売からスタートし、ミツバチを介した農業支援業を行う。また近年の主力事業としては、蜂蜜やローヤルゼリーなどを使った健康食品の受託製造・オリジナル品の製造などがある。本社は岐阜県岐阜市。

<http://www.api3838.co.jp/>

### クリス・グレン

オーストラリア出身のラジオDJ。ナレーターやイベントMC、執筆業のほか、インバウンド向けの情報発信に関するコンサルティングを行うなど、多方面で活躍中。趣味は戦国時代の歴史研究、城めぐり、甲冑武具の収集など。“日本人よりも日本人”な外国人として注目されている。現在のレギュラー番組はZIP-FM『RADIO ORBIT』(日曜10:00~13:00)。  
<http://www.chris-glenn.com/>

~これから~ **Future**



伝統の養蜂関連事業を守りつつ、健康食品やサプリメントの製造技術を磨いてきた。

“健康”への手助けと  
ミツバチの重要性を発信したい

同社の現在の主力事業は、ハチミツやローヤルゼリーなどの「蜂産品」を含む健康補助食品の製造だ。「これからも、みなさまの健康の手助けをすることが使命」と村瀬さん。そして「日本の農業を支えたい」と続ける。養蜂の現場では、人間の暮らしに、また自然にとってミツバチがいかに重要かが実感できた。



つくられている製品のほとんどは、他メーカーのオーダーに応えるOEM商品。一部、ローヤルゼリーやプロポリスを使用した自社製品がある。



大学院でアシナガバチを研究、ミツバチ課を志願し配属された藪田浩史さん(右)。実際の仕事を通じ、将来へ向けて、養蜂技術の継承に尽力されている。

ミツバチは植物にとってなくてはならない存在。つまり人間も、ミツバチがいなくなったら困ってしまうんですね。自然にとっていかに大切かを実感しました!

**Amazing!**

~いま~ **Now**



巣箱の中でミツバチが巣を作った巣脾(すひ)。1枚に約3,000匹が暮らす。

元気なミツバチが  
全国150軒の養蜂家から届く

川島養蜂場で働くのはミツバチ課16名。全国150軒の養蜂家から届くミツバチは、販売先農家の畑やハウスのサイズ、農作物の種類によって精査・規格分けされる。ミツバチの生産数は沖縄が突出しており、50軒が沖縄の業者だという。またミツバチの流通業だけでなく、数地内の一部ではローヤルゼリーの生産も行われている。

巣箱の仕分け作業を見学。「ミツバチは90%がメス。1箱に1匹、かならず女王蜂がいます」と村瀬さん。



いちご畑のハウスで使用されている同社の巣箱「らくらく交配シリーズ」。

花粉を元にミツバチの体内でつくられ分泌されるローヤルゼリー。写真のように手作業で取り出す貴重品。

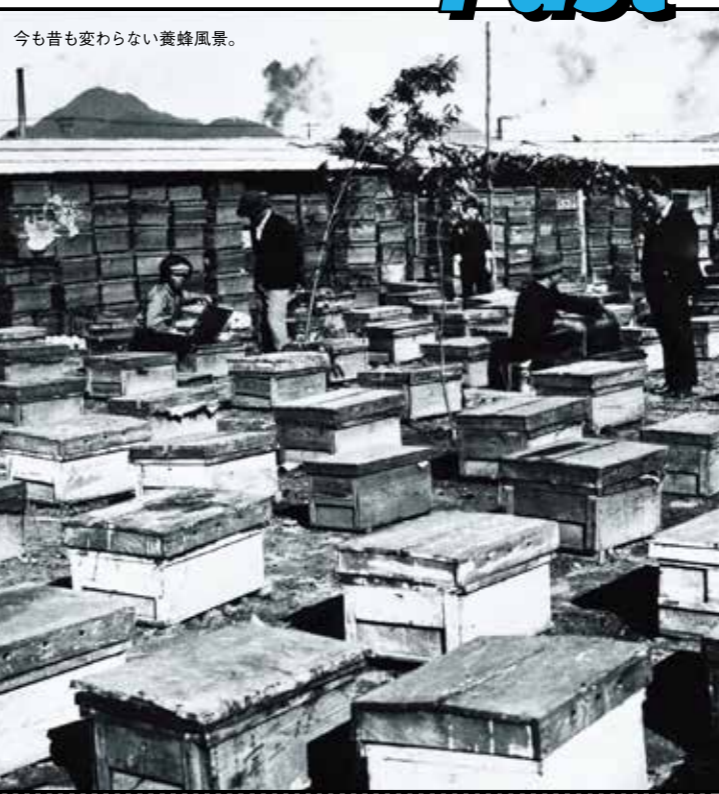


**Good!**

毎日ハチに愛情を注ぐ、ミツバチ課のみなさん

今年の春には、養蜂が盛んな沖縄にも事業所を開設。

~これまで~ **Past**



今も昔も変わらない養蜂風景。

創業して111年  
養蜂業者のサポートからスタート

日本の養蜂は、江戸時代にはすでに巣箱を用いる方式が行われていたとされている。アビの創業は、1907年(明治40年)。養蜂器具の製造・販売から始まった。自らが養蜂を行うのではなく、サポート業に徹するスタイルだった。約60年前に、養蜂家から仕入れた受粉用のミツバチを農家に卸す事業を開始。



アビが取り扱っている養蜂器具の数々。養蜂の方法は、基本的には創業時から変わらない。



創業者である先々代社長が、ハワイからセイヨウミツバチを輸入。



今井さんから100年以上にわたるアビの歴史をうかがう。

**Wow!**

ミツバチを知り尽くした会社ですね!

おいしい果物や野菜を  
食べられるのは、ミツバチのおかげ!

どーも、どーも、どーも! クリス・グレンです。今回やってきたのは、岐阜県各務原市の養蜂場です。岐阜市に本社があるアビ株式会社さんは、健康食品製造で知られていますが、養蜂業界に100年以上も貢献しているミツバチと縁深い会社です。

思いますが、ここに集められるミツバチたちの役割は花粉の交配です。農業に欠かせない受粉作業をミツバチが行うことを「ポリネーション」といいます。ポリネーションを通してミツバチは、人間と植物をつなぐ重要な役割を果たしています。全国から集まったミツバチを農家へ届けるアビさんは、まさに日本の農業を支える縁の下の力持ちですね!

養蜂という仕事には、個人的にも大変興味を持っていましたので、今回はすごく勉強になりました!



ご案内いただいたのは...  
ミツバチ課 課長  
今井弘一さん

ミツバチ課 係長  
村瀬芳紀さん

